



平成 19 年度 西区実施プラン

～ とともに歩む創造性ゆたかなまちづくり ～

期末報告

平成 20 年(2008 年)3 月

札幌市西区

西区では、毎年度「西区実施プラン」を策定し、区の使命と区運営の目標・基本方針を定め、それに沿って計画した各重点取組項目について、四半期ごとに検証しながら進めてきております。

その結果、平成 19 年度 of 取組結果の概要については、次のとおりとなりましたのでご報告いたします。

これまでの取組成果を踏まえ、平成 20 年度以降も、創造性豊かなまちづくりを目指して、区民の皆さまと連携しながら職員一丸となって積極的に進めてまいります。

平成 20 年(2008 年)3 月 31 日

西区長 谷口 芳憲

I 西区実施プランの全体構成

区の使命

“ともに歩む創造性ゆたかなまち”を目指して、区民との信頼関係を高めながら、区民主体のまちづくりを進めます。

区の目標・運営方針

- 1 西区の豊かな自然や歴史をはじめとする地域の個性・特性をもとに、区民とともに魅力あふれるまちづくりを進めます。
 - ◆ 区民参加のきっかけとなる事業を創出し、区民が主体となったまちづくりを推進します。
 - ◆ まちづくりセンター、区民協議会などを場として、区民の力を十分に発揮できるような環境づくりを進めます。
- 2 区民の視点で区役所改革を進めるとともに、市民志向に基づいた市民サービスの向上を目指します。
 - ◆ これまでの実施プランの成果を踏まえて、さらなるサービスアップに取り組むなど、快適・親切的な区役所を目指します。

重点取組項目

- 1 区民が主体となったまちづくり
- 2 “かがやき”と“にぎわい”のまちづくり
- 3 安全・安心の地域社会の実現に向けたまちづくり
- 4 地球に優しいまちづくり
- 5 市民の視点に立った区役所改革

Ⅱ 重点取組項目の主な取組結果

西区実施プランに掲げた重点取組項目の取組結果について、主なものを抜すいしました。また、進行管理については、四半期ごとのPDCA（計画・実行・評価・改善）により検証しながら進めました。

1 区民が主体となったまちづくり

(1) 区民が主体で進める魅力的で活力あふれるまちづくり

区民によるまちづくり活動の推進

◆ 西区まちづくりパートナー登録制度

地域のまちづくり活動の担い手を拡げるために創設した西区まちづくりパートナー登録制度について、周知拡大に努めた結果、今年度は新たに7団体が登録を行い、合わせて57団体が登録されました。

◆ 地域情報誌作成体験研修

19年度新規事業

情報紙の作成・発信を通じて、地域の魅力や課題を発見し、今まで以上に地域に愛着を持ってもらう目的で「地域情報紙作成体験入門講座」を開催しました。受講者はパソコンを使って、魅力ある紙面づくりを体験しました。

(9月25日～27日 18名受講)

◆ 「まちづくり参加・入門教室」の実施

19年度新規事業

区民によるまちづくり活動を促進するため、琴似二十四軒地区の50～60歳代の住民を主な対象に、琴似二十四軒の里立「おとな塾」を開催しました。(申込人数33名) 地区の歴史を知り、実際に行事に参加することでまちづくりに興味を持ってもらおうという目的で実施したもので、講演会やまちづくり体験として町並み探訪、河川清掃、地域の子どもたちとの交流、ワークショップなど4回にわたって実施しました。



まちづくりセンターを拠点とした地域の特性を活かしたまちづくりの推進

◆ まちづくり活動実践促進事業

各まちづくりセンターが、地域特性に応じて取り組む各種実践活動の実施機能を強化拡充し、地域の特色あふれるまちづくりを進めました。

< 各地区（まちづくりセンター）の主な取組結果 >

◆ 「地域で支えあう温かなまちづくり」のためのビジョン策定事業（八軒）

地域住民が自ら支えあい安心して暮らせる地域社会を築き、地域の目指すべき姿（ビジョン）を共有するため、高齢化社会に向けたお年寄りの見守り活動に必要な知識を得るための研修会や他区の福祉のまちづくり推進センターの視察など、地域ビジョンに策定に向けて必要な支援を行いました。

◆ 研修会や視察会を実施

- ① 10月11日「介護保険で提供されるサービス内容について」
- ② 11月7日「脳卒中患者に見られる身体機能の左右差について」
- ③ 12月12日「高齢者が住みよいまちづくりについて」
- ④ 1月29日 東月寒福祉のまちづくり推進センターを視察

◆ 琴似二十四軒地区の里づくりビジョン策定事業（琴似二十四軒）

まちづくりの担い手発掘・育成をねらいとした、まちづくり参加・入門教室「琴似二十四軒の里立“おとな塾”」を開催しました。

その結果、参加者のうち2名は、これをきっかけに琴似二十四軒福祉のまち推進センターのボランティアに登録し、拠点事務所のボランティア当番員として従事することとなるなど、区民のまちづくり参加意識を高めるとともに、担い手づくりに一定の成果を得ることができました。

また、琴似二十四軒地区の目指すべき姿「琴似二十四軒 里づくりビジョン」づくりに向け、地域住民、商店街、NPOなどがメンバーとなり、琴似二十四軒地区の今日的な課題発掘や今後の取組みの方向性についてワークショップ形式により協議・検討しました。

◆ 「おとな塾」（全4回）の実施

- ① 8月25日 公開講座「地区の歴史」と個別講座「町並み探訪」
- ② 9月1日 個別講座「発寒川の清掃体験」と公開講座「地区の現状・課題及び今後の展望」
- ③ 9月29日 個別講座「福祉事業“キッズカーニバル”体験及び町並み探訪」
- ④ 10月13日 振り返りのためのワークショップ

◆ 「琴似二十四軒の里の今日的な課題についての懇談会（ワークショップ）」（全4回）の実施

◆ 西町・コンサ通りまちづくり事業（西町）

「白い恋人サッカー場」を地域のシンボルと位置づけ、この地区を東西に貫く旧国道5号線に「コンサ通り」という愛称を付けて、町内会や商店街などによる実行委員会が、子どもたちの地域に対する愛着心の醸成や世代間交流を目的とした事業を行い、地域の連帯感を高めながら、地域課題の解決に向けたまちづくりを展開しました。

活動スタートの年ということで、まず、取組の地域への周知に力を入れながら、交通安全の推進などの地域課題に取り組み、地元商店街の活性化、世代間交流の促進などにつなげました。

◆ 実行委員会を設立して各部会で詳細事業を検討し、各種事業を実施。

- ・ コンサ通り商店街にぎわい事業
(懸垂幕設置、フラッグ設置)
- ・ コンサ通りPR事業(交通安全横断幕設置)
- ・ コンサ通りカップ少年サッカー事業
(少年サッカー教室の開催)



◆『発寒北安心して暮らせるまち協議会』（発寒北）

～テーマ別専門部会の設立と地域ビジョンの策定～

参加団体の活動情報の交換・共有、協議の場として、協議会を定例的に開催したほか、各団体が保有する知識やノウハウを効果的に地域全体の中で発揮できるよう、テーマ別専門部会を設置し、具体的な取組課題について検討し、地域ヴィジョンを策定しました。こうした取組を通して、関係団体の協働意識がより一層向上するとともに、ビジョンに基づく今後の活動に向けて弾みがつきました。

- ◆18年度の活動内容をリーフレットにまとめ関係団体等に配布
- ◆地域ニーズの把握や問題意識の傾向を把握するための「まちづくりアンケート」を実施、調査結果分析
- ◆専門部会として、見守り活動部会と環境問題部会を創設（部会は全3回開催）
- ◆地元小学校2校の生徒と関係団体の参加による活動報告会を開催。緊急合同パトールの活動報告やゴミ分別ゲーム企画案の披露など、協議会内部の情報共有を推進
- ◆これらを踏まえ、20年度の各種行動計画の指針として地域ビジョンを策定（協議会は全2回開催）



◆「わが街西野・古きをたずねて新しきを知る」促進事業（西野）

18年度にまとめた郷土史をテーマとした冊子「水車を語る」を参考に、19年度は西野のまちづくりの昔と今を、わかりやすく子供たちに伝えるための「絵本」を作成するとともに、五天山公園での水車復元など、これからの西野の変遷を記録画像として収録しました。

作成にあたっては、編集委員会を立ち上げて、町内会や学校、地域の歴史に係る資料を有する団体等に取材、編集を行ったことにより、活動を通じて地域内団体間のまちづくりネットワークがより強固なものとなりました。また、子どもたちはマンガという親しみやすい形で地域の歴史を学ぶことができ、大人は地域の歴史を再認識する機会を得ることができたことにより、子どもも大人も地域に対する理解が深まり、郷土愛の醸成を図ることができました。

- ◆編集委員会の実施（11月28日）
- ◆水車関連映像撮影の実施（6月18日、26日、7月23日、1月21日）

◆こどもまちづくり講座～山の手っ子「さんかくやまエコ・サミット」（山の手）

子どもたちを対象に、地域資源である三角山を中心とした魅力再発見を自然観察会やワークショップなどといった手法で実施し、それらを通じて、環境への関心を深めるとともに地域への愛着心醸成が図られました。また、地域のまちづくり活動に対する関心や興味を持ってもらうこともできました。

さらに、環境活動の取組を発表する「こども環境活動発表会」においてで「山の手っ子エコ行動宣言」を行いました。

- ◆山の手小学校及び山の手南小学校の協力を得て5回講座を実施
 - ① 9月 1日 琴似発寒川の探検（参加者 18人）
 - ② 9月 2日 三角山の自然観察（参加者 24人）
 - ③ 10月 20日 地域の魅力探しの散策（参加者 16人）
 - ④ 11月 10日 エコライフ行動の計画づくり（参加者 6人）
 - ⑤ 12月 8日 エコライフ行動宣言（参加者 10人）



延べ74人

- ◆地域にできるエコライフ、地域の魅力の情報還元を行うためワークショップを開催

◆『発寒この人』放送・編集事業（発寒）

地域で行われる様々なまちづくり活動を、その活動の中核を担う人物へのインタビューを通じてわかりやすく紹介するラジオ番組と冊子を制作・編集し、まちづくり活動に対する興味・関心の喚起や、活動PRによる各活動の参加者拡大のきっかけづくり、まちづくり活動への意識高揚を図りました。

- ◆ 三角山放送局と連携して「発寒この人」を10回放送
→ 地域から21人が出演して、放送局エリア人口140万人の聴取者に向け、19回にわたり情報発信(ラジオ「西区まちセン最前セン」を含む)
- ◆ 冊子「発寒この人」200冊をショッピングセンターや放送局ギャラリー等で配布



◆まちづくり探検隊 ～知ろう、学ぼう、そして語ろう、私たちの街八軒中央～（八軒中央）

小学校の総合的学習において、児童たちは「まちづくり探検隊」として、自分たちの住む街の歴史やまちづくりについて学びました。（琴似中央小学校5年生対象）地域のまちづくり活動を体験したり、地域の皆さんとの交流を深めていく中で、地域への愛着とまちづくり活動への関心を高めてくれました。また、発表会に参加した地域の皆さんにも、自分たちの街をあらためて見つめ直す良い機会となりました。

- ◆ 自分たちが住むまち八軒中央のことを学習する第1段階として、地域住民が講師となり、地域の歴史とまちづくりについて勉強会を実施（9月25日実施）
- ◆ 実際のまちづくり活動を体験したり、地域に出て取材するなどのフィールドワークを実施
- ◆ 地域住民に向けた発表会を開催（12月6日、児童の父母、町内会、青少年育成委員会、民児協など70名が参加）



まちづくりセンターの機能強化

継続発行している「西区まちづくり新聞」に各まちづくりセンターからの情報を掲載し、よりわかりやすいまちづくり活動情報を発信しました。（4～3月 第11号～第22号発行）

また、発寒まちづくりセンター（移転により拡充）と琴似二十四軒まちづくりセンターの情報交流スペースを拡充し、区民が利用しやすいよう環境整備を図りました。今後は利用者の意見を取り入れながらソフト面の充実を図っていきます。

(2) 区民との協働推進

地域との協働による健康づくり

19年度新規事業

平成 18 年度に作成したウォーキングマップを活用し、保健センターが健康づくり自主活動グループなどと連携・協働して「西区ウォーキング大会」を開催し150名が参加しました。(9月22日開催)

また、町内会等と連携・協働し、新たに2箇所の地域で「地域ウォーキング会」を開催しました。



地域主体の子育てサロンの拡充

琴似小学校区に地域主体の子育てサロン「ことに遊悠」を開設しました。未設置の八軒西小学校区では、地域住民の理解を深める目的で「八軒西小ふれあい広場」を3回開催しました。(延べ参加人数 252名)

また、学校法人美芸学園札幌福祉保育専門学校で「美芸ふれあい広場」を4回開催し、民間と地域が連携し、地域主体の子育てサロンの拡充を図りました。(延べ参加人数 231名)



地域と創る冬みち事業の推進

生活道路の除排雪の課題解決に向けて、住民・除雪事業者・行政による話し合いにより地域の実情に即した除雪の検討、試行等を行うため、15地区84町内会(19年度新規16町内会)を対象に意見交換会を開催しました。

地域との話し合いの結果、8地区30町内会で、新雪除雪の出動基準を10cmから15cmとする一方、地域の課題である交差点排雪等については強化を図りました。

また、3地区において三者協働により、雪出し防止キャンペーンや違法駐車防止パトロールを実施しました。

落書き防止の壁画制作

JR跨線橋の橋脚等の落書きは、列車の乗客や付近の住民、歩行者に不快感を与えることから、西区では落書き防止対策として橋脚への壁画制作に取り組み、区民との協働による美しいまちづくりを進めています。4年目の今年度は3高校(札幌西・札幌清田・札幌拓北)の美術部員で構成する「高文連石狩支部西地区美術部合同チーム」が、発寒跨線橋の壁画を制作しました。(6月24日)



2 “かがやき”と“にぎわい”のまちづくり

地域文化・芸術活動の振興

区民が文化・芸術に親しみ、参加できる機会の提供を目的に、各種イベントを開催しました。

◆ 西区民クラシック音楽の夕べ（7月20日実施 来場者数 440人）

区内中学生（八軒東中・陵北中）が出演し、PMF と共演しました。また、今年度から新たに、市民がより参加しやすいよう託児サービスを実施しました。

◆ 西区民シアター

（10月20日・3月2日・3月8日実施 来場者数 430人）

◆ 西区文化フェスタ 2008

（2月1日～2月29日実施 来場者数 3,206人）

音楽、舞踊、演劇、書華、写真など、全29団体により36公演を行いました。



▲ 西区文化フェスタ オープニング

西区「花回廊」

◆ 二十四軒ワイルドフラワー

「地域に親しまれ、うるおい・やすらぎの持てる景観」をつくる目的で植栽した二十四軒手稲通の中央分離帯のワイルドフラワーについて、除草などの手入れをしました。

◆ コスモス街道

新川支線の植樹帯に地域住民がコスモスを育てて潤いの空間をつくるため、除草・種まきを行いました。（6月2日から10日 延べ100人参加）

◆ 植樹帯への花苗の植え込み

歩道の景観向上と管理の効率化を図る目的で、地域住民の協力のもと、主要幹線道路等の植樹帯に花苗の植え込みを行いました。（5月12日から6月3日 延べ870人参加）

3 安全・安心の地域社会の実現に向けたまちづくり

西区子どもの見守りネットワーク会議の開催

安全・安心なまちづくりを進めるため、町内会や防犯・交通安全を推進する団体、保護者、学校関係者、地元企業の団体を情報共有化などにより有機的に結びつけ、地域が一体となって見守り活動に取り組もうと平成17年度に結成されたもので、3月5日には、会議を組織する130の各種団体の代表など100人が集まり、団体の活動報告や専門家による講演を行い、関係団体との連携を深めました。



防犯情報提供システムの推進

19年度新規事業

西区ホームページ内に開設した「安全・安心情報」を活用して、区民にわかりやすい防犯情報や「子どもの見守りネットワーク会議」の新規加入団体紹介などの情報提供を行うことにより、地域の自主防犯活動の支援・充実を図りました。

平成19年度札幌市総合防災訓練の実施

19年度新規事業

都市型災害に対応し、地域住民と災害時の要援護者がお互いに理解し助け合う協働型の総合防災訓練を、札幌市消防学校とJR琴似駅前広場の2会場で実施しました。



当日は地域住民や関係団体など約70団体、約1,600人が参加し、災害が発生した街中で住民自らが判断して救助活動を行う「発災対応型訓練」など各種訓練に取り組みました。(8月31日)

ヒグマ対策に関する地域住民向け勉強会の実施

西野地区でヒグマの出没が頻発した状況を踏まえ、ヒグマの生態を学び、共存への道を探るため、昨年度に引き続き住民向け勉強会「ヒグマを知ろう！」を実施しました。当日は約50人の地域住民が参加して、専門家や区役所職員を講師に、出没状況の報告やヒグマ対策に関する講演などを行いました。(12月16日)



4 地球に優しいまちづくり

地域の自主的な環境活動の定着・支援

◆ 環境活動手引き絵本「さんかくやまベエが行く。」の作成

19年度新規事業

環境活動への参加拡大や継続的取り組みへの手引きとなる絵本の作成に向け、そのストーリー等を検討する「こども編集局員」を公募し区内小学生23名を任命しました。局員は絵本の主役となる西区エコキャラクター「さんかくやまベエ」のふるさと三角山で取材の一環として自然観察会(9月2日)を行いました。



その後、4回の編集会議などの活動を進め、それらの検討結果をもとに絵本を作成し3月に発行しました。

◆ 地球に優しいまちづくり活動助成事業の推進

19年度新規事業

市民の自主的な各種環境活動を継続的発展へと展開していくため、「まちづくり団体活動助成金交付要綱」を改正して、環境活動団体への助成制度を充実させるとともに、その運用を図りました。

◆ アダプト・プログラム参加団体の拡大

市民・企業・行政が互いに協力して美化活動を行うアダプト・プログラムについて、19年度は新たに3団体が参加し、西区の参加団体は22地区で27団体、活動総延長は29kmになりました(延べ参加人数 約5,600人)。また、参加団体間の交流を推進するための支援を行いました。

西区民会議の活動機能の強化・支援

◆ 西区民会議の活動機能強化

環境をテーマに、区ごとのまちづくりについて論議する区民協議会としての「地球に優しいまちづくりを進める西区民会議」の活動機能の強化を図るため、幹事会などで西区民会議の今後のあり方について検討を進め、より実践的な取組を目指して3つのテーマ部会を創設しました。

3月には「“地球に優しいまちづくり” 活動報告会とセミナー」を開催し、環境活動手引き絵本「さんかくやまベエが行く。」を作成したこども編集局員による報告や地球温暖化問題に関する映画の上映などを行いました。
(3月15日)

また、西区民会議の地区別部会の活動である「「キャンドルナイト in 琴似二十四軒 (6月21・22日)」や「美味しいエコフェスタ (9月29日 来場者数約 3,000人)」などの支援を行いました。



▲ 環境活動報告会の様子



▲ 美味しいエコフェスタの様子

次世代実践者・次世代エネルギーの育成支援

◆ 「こども西区民会議」ネットワーク支援

環境問題において次代の担い手として期待される子どもたちのため、環境を守る大切さを理解してもらうための「水生生物観察会」や環境活動の取組を発表する「こども環境活動報告会」など、西区民会議や学校が行う活動に対して側面支援を行いました。



▲ 水生生物観察会の様子

◆ ペレットストーブモニター制度の推進

環境に優しい木質ペレットを燃料とするペレットストーブの購入費用の一部を助成するモニター制度について、冬期間の区内イベント等で啓発活動を進めて、新エネルギー(木質バイオマス)の普及促進を図りました。

(助成実績 11 件：18 年度 5 件・19 年度 6 件)

5 市民の視点に立った区役所改革

(1) 市民サービスの改革

サービスアップの取組

区民が区役所などを気持ちよく利用できるよう、快適・親切な区役所を目指して、昨年度までのサービスアップの取組を継続しました。

また、区役所庁舎内の案内表示などの見直しに取り組みました。



▲1階窓口の表示を見やすく改善

(2) コミュニケーションの改革

コミュニティFM番組の活用

三角山放送局、イオン札幌発寒ショッピングセンターと協働して、西区が各回のテーマと出演者選定で協力する「西区まちセン最前セン」の放送を始めました。

毎回、まちづくり活動を行っている市民が出演して、まちづくりや活動を紹介しています。(週1回 15分番組、4～3月に50回放送)

(3) 区役所経営資源の改革

西区職場研修等の実施

- ◆ 各部で新採用研修などを実施したほか、新たな取組として、暴力・威嚇行為の遭遇に備え、「危機対応研修」を実施しました。(6月6日)
- ◆ 税務部では、税務事務に必要な知識の習得と職員間の情報共有を目的に、部内通信「WesTax(ウエストタックス)」を毎月発行しました。(4月～3月 第1号～第12号発行)
- ◆ 保護課では、従来の知識に偏った職場研修を改めるため、研修委員会「2007年度イチャイチャリッツチーム」を結成し、ケースワーカーが抱える特有の悩みや問題点を職員間で共有・解決できるような研修を企画し、職場内アンケート実施や職員同士で研修講師を務めるなど、内容等を工夫した研修を実施しました。これにより、職場内のコミュニケーション活性化も図られました。(6/26、10/5、3/4開催)
- ◆ 各部・課が行った取組等を発表して、他の部課の業務や取組内容を知ってもらう目的で、内部職員向け発表会「種コレ in 西区」を実施しました。「種コレ」で発表した項目と合わせて各部から6項目の事例発表があり、80名を超える職員が参加しました。(2月26日)



※ その他各部においても、それぞれ新採用職員研修などを実施しました。

職員の市民活動への参加

- ◆ アダプト・プログラムと連携した区役所周辺の昼休み清掃（11月まで6回実施。延べ178人参加）
- ◆ 夏・秋の交通安全総ぐるみ運動の一環で、職員参加を募って早朝一斉街頭啓発を実施（7月18日・9月21日 区役所前 延べ55名参加）
- ◆ 各部分担して区役所前花壇の水やりを実施（7月保健福祉部、8月市民部、9月税務部）
- ◆ 職員ボランティアグループ「西区もりあげ隊」による市民活動への参加
 - ・ 9月29日 琴似二十四軒地区福祉のまち推進センター主催「キッズカーニバル」
 - ・ 12月8日 琴似青少年育成委員会主催「クリスマス会」 など



▲ 交通安全街頭啓発の様子

公平適正な課税と税収の確保

- ◆ 職場研修等による職員のレベルアップを図り、課税客体の的確な把握とチェック体制の強化による公平適正な課税に努めるとともに、税収確保に向けて滞納整理における実践力の向上を図りました。
- ◆ 市税収入率の向上のため、口座振替加入者増加への取り組みを進めたほか、休日・夜間納税相談窓口の拡大や預貯金・給与等の財産調査及び債権等の積極的な差押えによる滞納処分の強化を図りました。
- ◆ 広報さっぽろ、ホームページ、パンフレット配布及び出前講座等を活用して、区民へのわかりやすい税情報の提供に努めました。

国民健康保険料収納率の向上

- ◆ 収納率向上に向けを目指して、昨年度から導入された保険サービス員制度を効果的に活用し、夜間・日曜納付督促による督促強化、差押さえ予告・最終通知による滞納処分の徹底、納付約束の増額及び管理の徹底、減免や重複加入者の把握の徹底を推進し、大きな成果を上げました。また、口座振替加入者も昨年度に比べて増加しました。
- ◆ 今後も各種取組を継続するほか、保険証の窓口交付による滞納者の呼び込みや口座振替加入者増加に向けた取り組みなどを進め、より一層の収納率向上に努めました。

(4) 区役所組織の改革

区組織の垣根を越えた横断的な連携による取組の推進

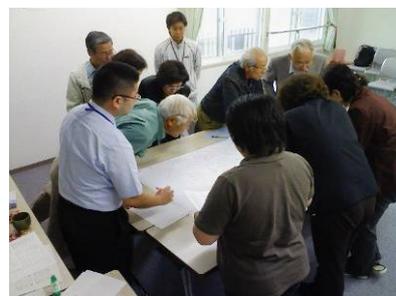
◆ 区役所のサポート体制の強化

地域振興課において、まちづくりセンターのサポート強化を図るため平成 18 年度から導入している地区担当制の運用を継続し、各種まちづくり事業の取り組みに対する支援を図りました。

また、まちづくりセンター所長会議及び地区担当会議の定期開催により、地域の課題等の情報共有を進めました。

◆ 地域活動の支援強化

地域福祉の向上を目指している地域団体を支援するため、保健福祉課、まちづくりセンター、区社会福祉協議会が連携して、それぞれの団体のニーズに対応した研修会の開催や地域福祉マップの作成などの支援を行いました。



▲ 町内会による地域福祉マップ作成の様子